

C-1 指導案 (B-2 題材計画の第三次の一時間目)

段階	配時	学習内容・活動 <学習形態>	指導上の留意点
導入	5	1 学習課題を確認する。 <div style="text-align: center;"><一斉></div>	指導上の留意点 <input type="checkbox"/> 評価方法及び支援 <input type="checkbox"/> . . . Bに引き上げるための具体的な手立て (■) ・前時までの学びを振り返り、発表側・聞き手側の姿勢を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> マイミュージアムを中間発表し、鑑賞しよう。 自分の見方を広げよう。 </div>			
展開	25	2 代表者が企画案を発表し、鑑賞していく。発表者・聞き手それぞれに課題を持って活動に取り組む。	・作品の世界に入っていけるような雰囲気作りを行う。 ・自分の言葉で作品の魅力を語るができるように助言していく。 ・生徒が発した造形言語を見逃さずに取上げていくことで、造形言語を用いた言語活動への意識の高まりを図る。
<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>※本時における活用力をはぐくむ場面【B-5・6】 課題解決の意識を持って他者の考えに触れることで 自分の考えを深めながら企画案の工夫・改善・発展へとつなげる。</p> </div>			
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の課題を確認する。 ・聞き手は、心にとまった表現や自分の思いなどを随時メモしていく。 ・受け取った内容を数名が発表する。 <一斉> </div> <div style="width: 50%;"> <input type="checkbox"/> 評価の観点① (関心・意欲・態度)・④ (鑑賞の能力) 評価の方法【行動観察・ワークシート】 評価規準 <発表者①> A自分の企画案の魅力が他に伝わるように、作品としっかり向き合いながら意欲的に発表している。 B自分の企画案の魅力が他に伝わるように、意欲的に発表しようとしている。 <聞き手④> A他の案を鑑賞して、そのよさを共感的に感じ取り、自分の案の工夫・改善・発展に活かすことができる。 B他の案を鑑賞して、そのよさを感じ取るとともに、見方を広げることができる。 </div> </div>			
まとめ	5	5 学習の振り返りと今後の学習の流れの確認 <一斉> ・パソコンの後片付け	・本時の学習を振り返り、次時の練り上げの見通しを持たせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ■自分の考えをまとめることができない。 ・考える視点を与え、考えやすいように助言していく。 </div>

<授業の様子>



見方を広げていく



自分の思いを整理し組み立てる



造形言語を用いて表現する

C-2 どこでもミュージアムPART Iの様子



どこでもミュージアムPART I in 邑知中



本物との対話（活動場面の工夫）



作品からの受けたメッセージを言葉に表す



互いに批評しあう

なお、本実践は3年生を中心に行ったが、1、2年生に対しても学びの系統性を意識した中で、鑑賞授業の実践を行った。

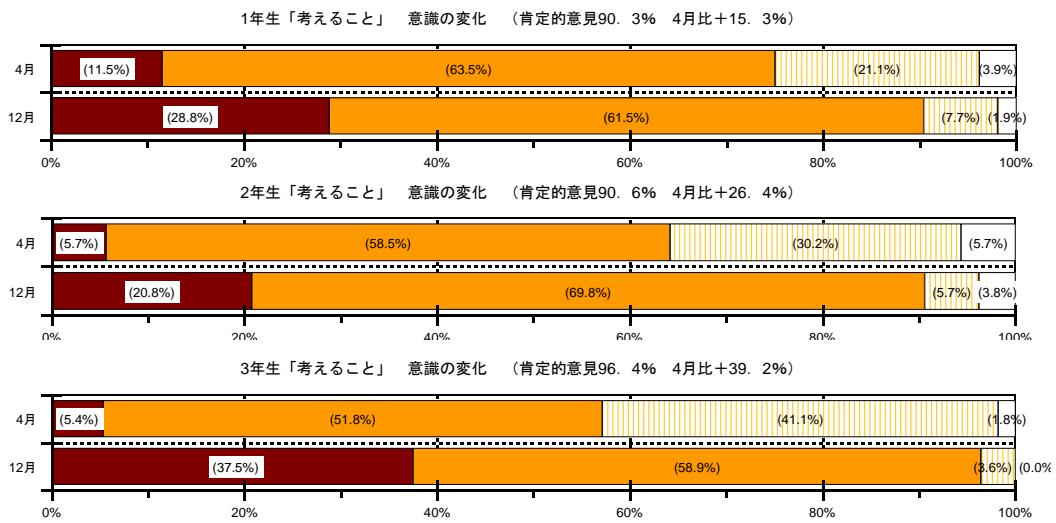
C-3 生徒の学びの成果

(1) 生徒の意識の変化（12月上旬実施のアンケートより一部抜粋）

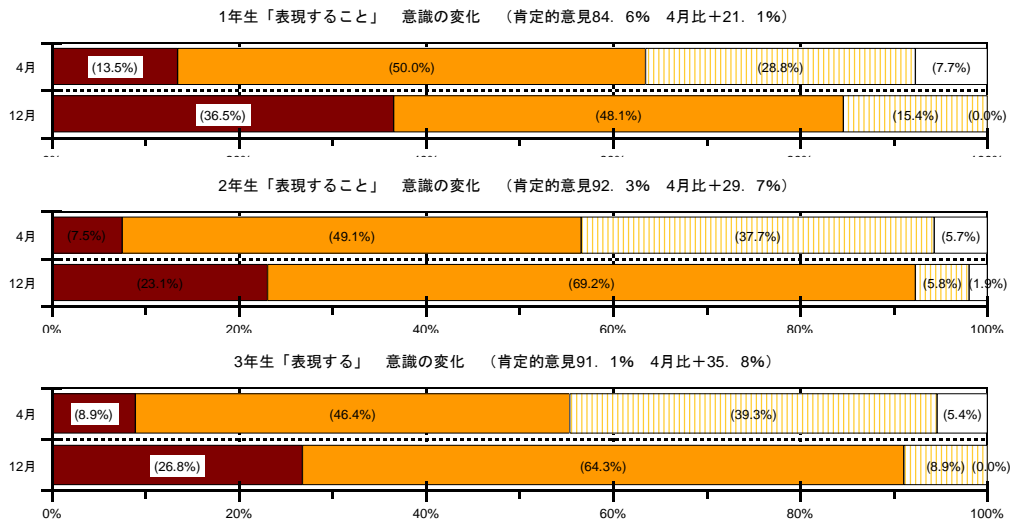
4月と12月に意識アンケートを実施し、取組による意識の変化を探ってみた。結果は以下の通りであった。



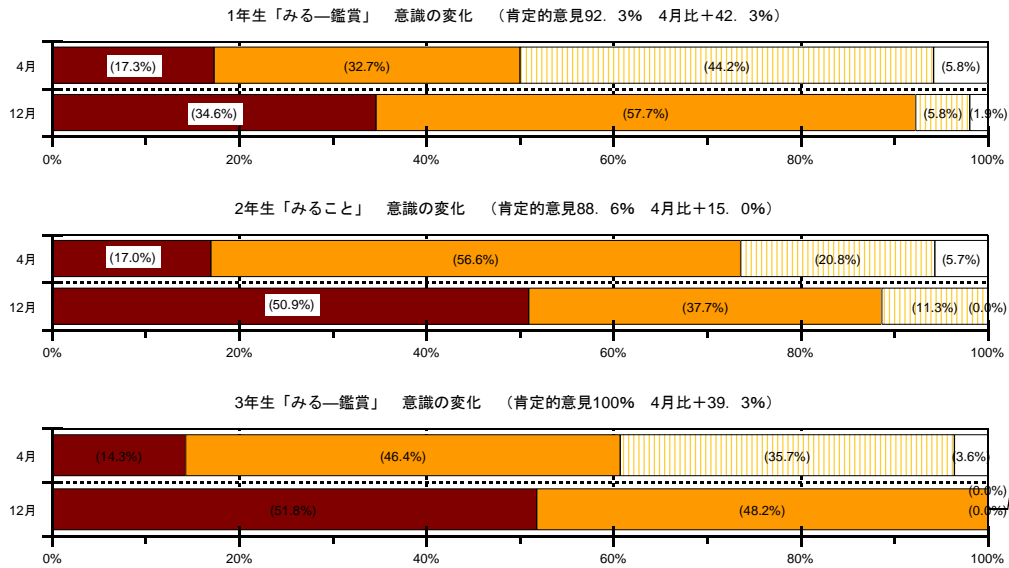
○何かのテーマに基づいて、考えることが好きですか



○造形表現を用いて、表現することに興味がありますか。



○「みる一鑑賞」に興味がありますか。



いずれの項目においても、肯定的な考えが増加している。特に「みる」行為、「考える」行為については、特に重点的に取り組んだ結果が、生徒の意識に現れたことが嬉しい。表現活動に対する意識の高まりは、鑑賞と表現が一体となっていることの表れであり、生徒にとっては自然なことなのかもしれない。興味が増すということは意欲の増加につながっており、意欲の増加はそれぞれの行為の質の深まりにもつながっていくと推測できる。よって意識の高まりから、活用力の深まりが読み取れるとってよいのではないだろうか。興味関心の低い生徒に対しては、その原因をアンケートやワークシート、生徒との会話などから探り、個に応じた具体的な手だてを講じていきたい。そして生徒全員が美術の活動が好きになり、学校教育での美術の学習が終わった後もその意識を継続しながら生活していくことができるように支援を続けていきたい。

(2) 生徒作品より (3年生『マイミュージアム』での生徒の企画案より)



生徒は、「造形言語を意識する」といった条件の中で、幾度も試行錯誤を繰り返していた。最終的に生徒が表現した内容はどれもが作品の内面に迫ろうとしたものであり、美術科が掲げた活用力『自分の価値意識をもとに、自分なりの意味や価値をつくりだす際に働く力・想いを深める力』『自分の思いを大切にしながら、言語や造形表現として表出していく力』に迫る内容であったといえよう。

(3) ワークシートより

(3年生『マイミュージアム』 自分にとっての「みる」行為についての変化について記したワークシートより)

活用力を意識した鑑賞授業を実践した結果、生徒のワークシートに記入された生徒の言葉から、多くの生徒が思考力を働かせ、「みる」行為を昇華させていることが伺える。その一部を紹介する。

- ・今まで私にとって「みる」ということは、ただ作品に描かれていることを外側から感じ取る程度でした。しかし、マイミュージアムを通して、作品に描かれていないことも感じ取り、内側から作品を「みる」ことができるようになったと思います。作品の魅力を自分の言葉で表現するのは難しかったですが、素敵な作品に出会うイキきっかけになったと思います。
- ・見るという授業では、一人一人の見方は一人一人違って、それがその人の個性であるということを改めて実感しました。そこで私は『見る』をこう考えます。
『～見る。それは、自分を見る。そして個性をみる。～』
- ・私が見るポイント・・・前より作品の見方が変わってきました。作品から伝わってくるもの、色遣い、今までまったくとっていいほど絵に関心のなかった私が興味を持てるようになってきました。絵を見て考えるようになりました。私の中でたくさんのものが生まれてきたと思います。美術は作るだけでなく、見ることも楽しいと初めて知りました。
- ・この「どこでもミュージアム」から、「見る」ということを学んで、一枚の絵を見るとき時間をかけて見るようになりました。絵とタイトルを照らし合わせてみたり、季節や時間帯を感じとるようになり、鑑賞するという、新しい楽しさを知りました。考えるって楽しいなと思いました。次に美術館に行く機会があればじっくり作品を見てみたいです。というか美術館に行きたくなりました。
- ・私のテーマは「光」です。光は身近にあるものですが、それを言葉に表そうとすることは意外に難しいものでした。絵を見て思うことをなかなか言葉にできないのです。でも思ったことを言葉に表すことで、私たちの心はもっと豊かになっていくと思いました。毎日の何気ない出来事でも、言葉にすることはいいことだと思います。特別なことでなくても下手な文章でも、素直に感情を「自分の言葉」にすることで毎日が少しずつ楽しくなるだろうと思いました。
- ・見るということについて、私は感じ方が変わったり、とらえ方が大きく変わったりしました。深く考えること、作者が考えていることが時間をかけることによって気づくことが多かったです。
- ・この授業をする前と比べて、作品の世界に入り込んでその作品を味わうということが自分で出来るようになったと思います。それは美術の力の一つである『見る』という力がちゃんと身についたことなのではないかと思いました。